

総務政策委員会会議録

招 集

令和6年5月15日（水）午前10時 議会委員会室

出席委員（9名）

（委員長）渡 辺 穰 爾 （副委員長）吉 岡 古 都
伊 藤 ひろえ 稲 田 清 岩 崎 康 朗 門 脇 一 男
国 頭 靖 津 田 幸 一 森 谷 司

欠席委員（0名）

説明のため出席した者

【総合政策部】佐々木部長

[交通政策課] 倉本課長 足立担当課長補佐 宮前係長

出席した事務局職員

松田局長 田村次長 田淵議事調査担当係長

傍 聴 者

安達議員 大下議員 岡田議員 田村議員 塚田議員 戸田議員 西野議員

又野議員 松田議員 森田議員 矢田貝議員

報道関係者1人 一般1人

報告案件

・よなご共創型交通プロジェクトの国事業採択について [総合政策部]

~~~~~

### 午前9時58分 開会

○渡辺委員長 これから総務政策委員会を開会いたします。

本日は、総務政策部から1件の報告がございます。

よなご共創型交通プロジェクトの国事業採択について、当局からの説明を求めます。

佐々木総合政策部長。

○佐々木総合政策部長 すみません。御説明の前に一言御挨拶を申し上げたいと思います。遅ればせながらでございますが、4月に総合政策部長に着任いたしました佐々木と申します。今日は公共交通の関係で御報告申し上げたいと思いますが、この問題を含めまして、持続性の高い米子市のまちづくりに懸命に取り組んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

（「お願いいたします。」と声あり）

○渡辺委員長 倉本交通政策課長。

○倉本交通政策課長 それでは、よなご共創型交通プロジェクトの国事業採択について御報告いたします。資料を御覧ください。だんだんバスに交通系ICカードを導入しまして実証事業を行う、よなご共創型交通プロジェクトにつきましては、令和6年度当初予算で予算化しておりまして、国土交通省所管の補助事業、共創・Maas実証プロジェクトに補助申請を行っていたところでございます。それにつきまして、今般、事業採択の通知がございましたので、本日は御報告をいたします。なお、国の補助制度につきましては、資

料の四角の枠内に概要を記載しております。この中で本市が申請いたしましたのは、2つある区分のうち①の共創モデル実証運行事業に申請を行ったものでございます。まず1番、採択事業の概要でございますが、事業名は、よなご共創型交通プロジェクトです。事業は、協議会を立ち上げまして推進をしていこうとしております。それで現時点で予定しております協議会のメンバーにつきましては、記載してありますように本市のほか、西日本旅客鉄道株式会社（JR西日本）、日本交通株式会社、日ノ丸自動車株式会社、角盤町商店街振興組合、米子商工会議所青年部、鳥取県でございます。具体的な事業内容につきましては、（3）の事業概要を御覧いただきたいと思っております。大きく分けまして3つの事業展開を計画しております。まず、①だんだんバスへ交通系ICカードICOCAの決済端末を導入整備いたします。②商業施設への交通系IC端末ICOCAの導入と、店舗やイベント等と連携いたしまして利用促進事業を実施したいと考えております。③交通系IC端末の県内全域への導入に向けた調査等の実施です。これにつきましては、今回だんだんバスに導入するわけですが、将来的に路線バスを含む県内全域のバスへのキャッシュレス決済の導入を計画しておりまして、鳥取県が中心になって今回取組を進めていこうとするものでございます。続きまして、採択額でございますが、（4）に記載してありますように国費1,400万円でございます。全体の事業費といたしましては2,100万円を見込んでおりまして、括弧書きしてありますけれども、国、県、市の負担は括弧書きの負担割合となっております。今後のスケジュールですけれども、（5）に記載しておりますとおり5月中に協議会を立ち上げまして、その協議会におきまして、6月から9月にかけて計画準備を進めてまいります。この計画準備といいますのは、事業の詳細な準備調整でありますとか、IC端末の発注、車両への設置を進めまして、10月頃から年明けの1月末までの期間で各事業を実施してまいりたいと考えております。その後、2月には結果分析を行う予定としておりまして、その結果につきましては、議会のほうにも改めて報告したいというふうに考えております。最後2番ですね、今回の事業の狙いですが、まず、だんだんバスというのが、市内中心部に来られた地域の住民の方や市外から観光等で来られた来訪者の方の移動性、回遊性を高める役割というのを担っております。そこにキャッシュレス決済を導入いたしまして移動利便性の向上を高めますことと、加えまして今回、商業施設やイベント等々の連携も予定しておりますので、地域経済の活性化につなげていくと、活性化を図っていくということを狙っております。本市におきましては、まちなかを「車中心」から「公共交通と歩行者中心」の空間に今転換させようという、いわゆる公共交通を活用した「歩いて楽しいまちづくり」というのを進めております。これに関連してだんだんバスについては、この4月からですね、歴史・まちなかコースの本格運行を開始したところでございます。今回この事業を活用いたしまして、ICカードを導入することでさらなる利便性向上に努めてまいりたいというふうに考えております。簡単ですが、説明は以上です。

**○渡辺委員長** 当局からの説明は終わりました。委員からの意見、質問等ございますか。  
津田委員。

**○津田委員** この件については、私も令和5年の9月議会で取り上げさせていただきまして、某鉄道の支社の役員の方から、関西圏から来た方が、じゃら銭をバスに入れるっていうのは本当に不便だっというように言われて、何とかしてもらえないかっていうようなことでありましたけど。今回、本当にありがたいなと思っております。それで、この

IC端末自体は「だんだんバス」って書いてあるんですけど、これは日ノ丸バスさんとかも使っておられるバスで「だんだんバス」って書いてあるものがあると思うんですけど、ああいうものにもつけられるのでしょうか。それとも米子市だけの、あの赤いだんだんバスなんでしょうか。

○渡辺委員長 佐々木部長。

○佐々木総合政策部長 現在予定しておりますのは、いわゆるだんだんバスで今運行している、まあ3台ございますが、あれを中心に搭載しようというふうに考えております。

○渡辺委員長 倉本課長。

○倉本交通政策課長 ちょっと補足させてもらいます。現在運行しておりますポンチョといわれるだんだんコースのあの赤い車両ですね。で、今回4月から運行を開始した歴史・まちなかコースの新車両、黄色と緑の車両が今3台体制で運行しております。で、これに導入しますのと、あと予備車両が1台ございまして、そちらのほうにも導入しますので。先ほども委員さんが言われた、今、車検があったりとか、今、市が運行しているバスの車両が例えばトラブルがあったりしたときには、その代わりに中型のちょっと大きな日交さんとか日ノ丸さんが持っておられるバスで運行することもあるんですけど、ちょっとそちらの車両のほうは今回は導入いたしませんので、市で運行しているもの2両にさせてもらうというところでございます。

○渡辺委員長 津田委員

○津田委員 本市が持っている車両のみということであるということですね。で、もう一つなんですけど、このIC端末ということでICカードがないと、ないというか当然両方できると私は思っているんですけど、両方できるようになってるんでしょうか。貨幣というか、お金のほうも。

○渡辺委員長 倉本課長。

○倉本交通政策課長 今回、ICOCAを導入しても現金が引き続き使えるかどうかということですが、そちらも併用といいますか、現金でも支払いができますし、今回導入したICOCAでも使えるようにという仕様になっております。

○渡辺委員長 津田委員

○津田委員 そういうことで、それでICカードを、やっぱりこれから持っていない方というのがおられるんですけど、どういうふうに周知というか普及させていかれるような計画があるのでしょうか。

○渡辺委員長 佐々木部長。

○佐々木総合政策部長 まあ既に、正直言うと米子のほうでは、JRで端末が導入されていることもございますので、一定の普及率というのはあるのかなと。県内の他市と比べますとあるのかなというの思っておりますが、今回その実証事業の中に、その商業地の中に端末を置く形で、できるだけそういった地域の中にも出かけていくような、そういったモチベーションを高めていただくような形のものを組み込みながら、ぜひとも使ってくださいように誘導していきたいと思っております。その際に、ちょっと説明の中では触れてなかったかもしれませんが、例えばポイントの還元ですとか、そういったことで何かあればインセンティブが働くようなことも、ある程度実証事業の中で組み込んだらどうかなというふうに考えております。

○渡辺委員長 津田委員

**○津田委員** 本当にインセンティブっていうのが、先ほど出てきましたけど、本当にそのICカードを使うことによってまたいろいろなポイントとかがあるということで、またこのだんだんバスにもそのポイントが反映されるとか、使ってまた歩いて楽しいまちづくりにこれを使って行って市がどんどん活気づいていくということを狙いにされているということで、大変よく分かりました。

**○渡辺委員長** ほかに。国頭委員。

**○国頭委員** この簡易型端末ということなんですけど、簡易型端末というのはいわゆる外型で、ぽっと今あるのにつける感じの端末なのかということと、それから、だんだんバスにつける端末機器の金額とですね、全体の2,100万の内訳っていうか金額と、それから商業地、沿線の商業施設に交通系ICカード決済機を導入とありますけども、これはどのぐらいの店舗で、どのくらいあげるっていうか、その店舗に何台ぐらい設置するのか。その費用、内訳というのは分かりますか。

**○渡辺委員長** 倉本課長。

**○倉本交通政策課長** まず最初に、端末の整備の手法だと思うんですけど、今回設置するのは簡易型の端末ということで多数の運賃箱があると思うんですけど、あれそのものをごっそり替えるタイプではなくて、新たに追加をする形になります。そういうやり方で整備してまいります。費用の内訳なんですけど、この整備費用につきましては大体このぐらいの規模感というのはお伝えできるんですけど、約1,000万程度というような予定をしておりますけど、ちょっと正確な数字というのはJRさんと実は秘密保持契約というのがあります。契約を交わした後でしたらお伝えできるんですけども、ちょっと現時点では5月いっぱいまで一千数百万程度と予定をしております。あと商業施設店舗への設置につきましては、現在このICOCAを使える店舗って実はコンビニエンスストアでありますとか、もう既に使えるところもございます。今回ちょっと予定しておりますのは、例えばですけども、だんだんバスに関連する事業ですので、だんだんバスの沿線の商業施設ですね、ちょっと今回商店街さんにメンバー入っておられますけど例えば高島屋等に設置をしたいというふうに考えております。この費用につきましては、ちょっと概算の見積もりは持っているんですけども、レジのタイプであったりとか、ちょっと費用感が違ってきますので、ちょっとすみません、今明確な答えができないんですけど、あとイベント等での活用については、そのレジそのものの改修は要らないので。この簡易型の端末を通信環境さえあれば利用できますので。JRさんのお話の中では、その機械そのものについては無償で以前から提供いただいておりますので、そういう流れで進めていきたいと思っております。

**○渡辺委員長** 国頭委員。

**○国頭委員** どこにどのくらい商業施設とか、それで想定されて申請されていると思いますので、その辺り、戦略的かというと、持っておられると思いますので、その辺りまた分かってくれば教えていただきたいなと思います。

あとですね、一応だんだんバスに導入するっていうことなんですけども、とりあえずこの先には県内全域の普通のバスに向けて事前調査という形でということなんですけども。この先のその県内全域の路線バスへの導入の道筋というかですね、計画っていうのは、もうつくっておられるんですか。

**○渡辺委員長** 佐々木部長。

**○佐々木総合政策部長** 今回もですね、県に協議会のメンバーに入ってくださいといいま

すか、そもそも事業の申請自体、県と一緒に共同提案のものでございます。その趣旨としては、いわゆる路線バス全県展開ということを経営のほうでも重く受け止めてですね、このたび協議会にも参画いただくこととなっております。やはりそのコストの問題ですとか、あるいはどのエリアからスタートするかとか、その辺り県のほうでも中での最中というふうに伺っておりますので、ぜひ米子地区、西部圏域で早期に路線バスに導入ができるように、県とよく調整をしていきたいというふうに思っています。

○**渡辺委員長** 国頭委員。

○**国頭委員** ということは、今部長言われたみたいにまだ具体的というわけではないんですけど、構想では一応あるんですけど、ここの実証時期を踏まえて、さらに働きかけているということでしょうか。

○**渡辺委員長** 佐々木部長。

○**佐々木総合政策部長** 御指摘のとおりでございます。当然その5年10年先ということで大きな流れで考えているわけではなくて、この事業の実証時期が終わったら速やかにですね、路線バスに導入できるように私どもさらに働きかけをしていきたいと思っております。ただ、その際にも、先ほど申し上げましたように財源の問題が。やはりかなりバスの台数も今度は大きくなってまいりますから財源負担の問題が発生しますので、この辺りをいかにして例えば国庫補助みたいなものを獲得するかとかですね、そういった戦略性も必要になってまいります。そのためにも今回の実証実験でやはり人流が増えたとか、御利用が増えたというものがあって、積み重ねていく努力が必要になってくると思っておりますので、実証実験をぜひ成功させていきたい。その上で、早期の導入が図れるように検討及び調整をしていきたいというふうに思っております。

○**国頭委員** 分かりました。もう一回、委員長いいですか。

○**渡辺委員長** 国頭委員。

○**国頭委員** すみません。ちょっとこの先になるんですけど、全国的にその鳥取市もこの交通の、無人バス等の実証実験をやっておられますけども、そういったこの先という話はあるんですか。計画というのは。

○**渡辺委員長** 倉本課長。

○**倉本交通政策課長** 無人運転、バスの無人運転ということでございますが、調査・研究の対象としては米子市も当然計画に書いてあったりするんですけども、現時点でそういう具体的な動きは、現時点ではございません。調査・研究を今鳥取市さんがされてますけど、お伝えしますと、町なかですとある程度、入り組んだところはなかなか難しいんですけど、直線的なところとかであるとある程度はできるような状態になっているんですけど、ちょっと郊外になったりすると、例えば枝とか枯葉があっただけで止まったりするような状況も現時点ではあるみたいなので、引き続きちょっと調査をしまして、もう大丈夫だという状況になりましたら計画を立てて、検討を進めてみたいというふうに考えております。

○**渡辺委員長** 国頭委員。

○**国頭委員** 本当、鳥取市はやっていってますので。県内でもそういった事例もありますので、ぜひですね、全国でもかなり取り組んでいるところもありますので、いろいろ調査しながら米子でもなるべく早くそういった考えを持ちながら取り組んでいただきたいなど。これは要望として。

○**渡辺委員長** ほかに。吉岡委員。

○**吉岡委員** やっと導入っていう感があります。先ほど津田委員も言われましたけど、議会でももっとも前からずっと要望もありましたし、あと、地域公共交通会議でもJRさんが毎回のようこの簡易型を提案していただいていたと思うのですが、導入がここまで遅れた理由っていうのはどういうふう分析されていますか。

○**渡辺委員長** 倉本課長。

○**倉本交通政策課長** このICOCAの導入、キャッシュレス決済について遅れてしまったということですが、もともと鳥取市さんは私どもより1年先行してやったんですけど、これは新型コロナの交付金を活用してされました。当時ですね、実は県ともお話をさせてもらっていて、路線バスもやっぱり全体と一緒にやらないといけないんじゃないかっていう議論が実は鳥取市さんと別にありまして、バス事業者さんも含めて検討を進めたんですが、なかなかそこで話がまとまりませんで、ちょっと米子市は、鳥取市さんは単独で動いておられたので、先行されたという結果です。今回遅ればせながら導入するわけですが、これをうまく活用できるようにしっかりと取り組んでいきたいと思っております。

○**渡辺委員長** 吉岡委員。

○**吉岡委員** いろいろこれまでの対応の中では、遅れたついでにもう世の中カードのタッチ決済に移ってきてるから、そっちを検討したほうがいいんじゃないかみたいな話もあったんですけど、今回ICOCAに結局したっていうのは、どういう理由がありましたか。

○**渡辺委員長** 倉本課長。

○**倉本交通政策課長** 今回ICOCAの導入、ほかの手法があるのにICOCAになったということについてですけども。この動きがですね、昨年でしたかね、鳥取県と鳥取市の全市町村、あとはJRさんとで地域づくり関係の連携協定というのを結んでおりまして、その流れで議論を進めてきたものですので、結果的にはICOCAに落ち着いたということではあります。しかしながらですね、各地におきましては、他の手法も当然導入されておりますし、そこは引き続き調査・研究しながら、私どもの考えるのは利用者さんの利便性というところですので。選択肢は複数あってもいいと思いますので、そこはちょっと予算との兼ね合いもありますけれども、引き続き研究はしっかりしていきたいと思っております。

○**渡辺委員長** 吉岡委員。

○**吉岡委員** 何でしょうICカードでも現金の代わりみたいな感覚があるので、交通系ICは。ユニバーサルとかそういう意味ではタッチ決済よりもいいのかなっていうふうにも思います。あと先ほど、成果をきっちり上げていかないといけないという御答弁があったんですけど、この中でこの事業の効果としてまず利便性の向上、移動の円滑化、地域経済活性化というようなものを図るっていうふう書いてあるんですけど、それを導入前後でどういう数字で測るといって考えておられますか。

○**渡辺委員長** 倉本課長。

○**倉本交通政策課長** 効果測定の方法ということでございます。実はこの申請時にはこういう数値をこういうふう上げていくっていうのは、実は目標設定がもともとその事業計画の中で設定をしてございません。しかしながら、結局、前と後で数字を比較しないと効果っていうのは分かりませんので、現状のだんだんバスの利用者がいかにどう推移をするのか。あとはイベントでありますとか店舗等の影響を考えておりますので、例えば

イベントを打っていたときに、そのイベント先でもそのＩＣＯＣＡの端末を置いて、だんだんバス使って移動してもらって、そこでまた買い物をしていただくとか。そこら辺のデータは取れますので、そこがどういう変化をするかというのをちょっと見ていきたいというふうに思っております。

○渡辺委員長 吉岡委員。

○吉岡委員 この事業そのもののＫＰＩというのは何を求められているんですか。

○渡辺委員長 倉本課長。

○倉本交通政策課長 この補助事業の申請項目があるんですけど、ＫＰＩ設定という項目が実はなくてですね。ですので、現時点では設定しておりませんが、目標としてはさっき言いましたように前後で数字を比較するのは必要だと思いますので、そこは報告のときにさせていただきたいと思います。

○吉岡委員 分かりました。

○渡辺委員長 ほかに。

〔「なし」と声あり〕

○渡辺委員長 ないようですので、質疑はこれで終わりとしたと思います。

以上で総務政策委員会を閉会いたします。

**午前１０時２４分 閉会**

米子市議会委員会条例第２９条第１項の規定により署名する。

総務政策委員長 渡 辺 穰 爾